

# 付 録

## 1 岡山県の沿革

本県は、古代から吉備の国といわれ、近畿、北九州の古代文化圏の中間に位置して、いわゆる吉備文化が繁栄した地である。そのことは、特に縄文・弥生時代の土器などの出土品や遺構、古墳時代の多数の巨大な古墳の存在など考古学上立証されている。また、古文献にも、神武天皇の東征の途上吉備の高島に3年間駐留されたとか、崇神天皇の時代に四道将軍として吉備津彦命を派遣されたなどの古事が見える。

大化の改新のあと、吉備の国は備前、備中、備後の3国に分国され、さらに和銅6年(713)に備前の北部6郡を割いて美作国が置かれ、律令体制のもとに諸制度が整い、産業、文化もしだいに発展した。室町時代末期からは兵乱が相次いで起り、群雄割拠して覇を争ったが、天正5年(1577)には宇喜多直家が備前・美作一帯を制覇し、備中は毛利氏が支配した。慶長5年(1600)の関ヶ原合戦で宇喜多氏は敗亡し、代って小早川氏が備前・美作に入封したが、2カ年で断絶したので、備前には池田氏、美作には森氏が入封した。

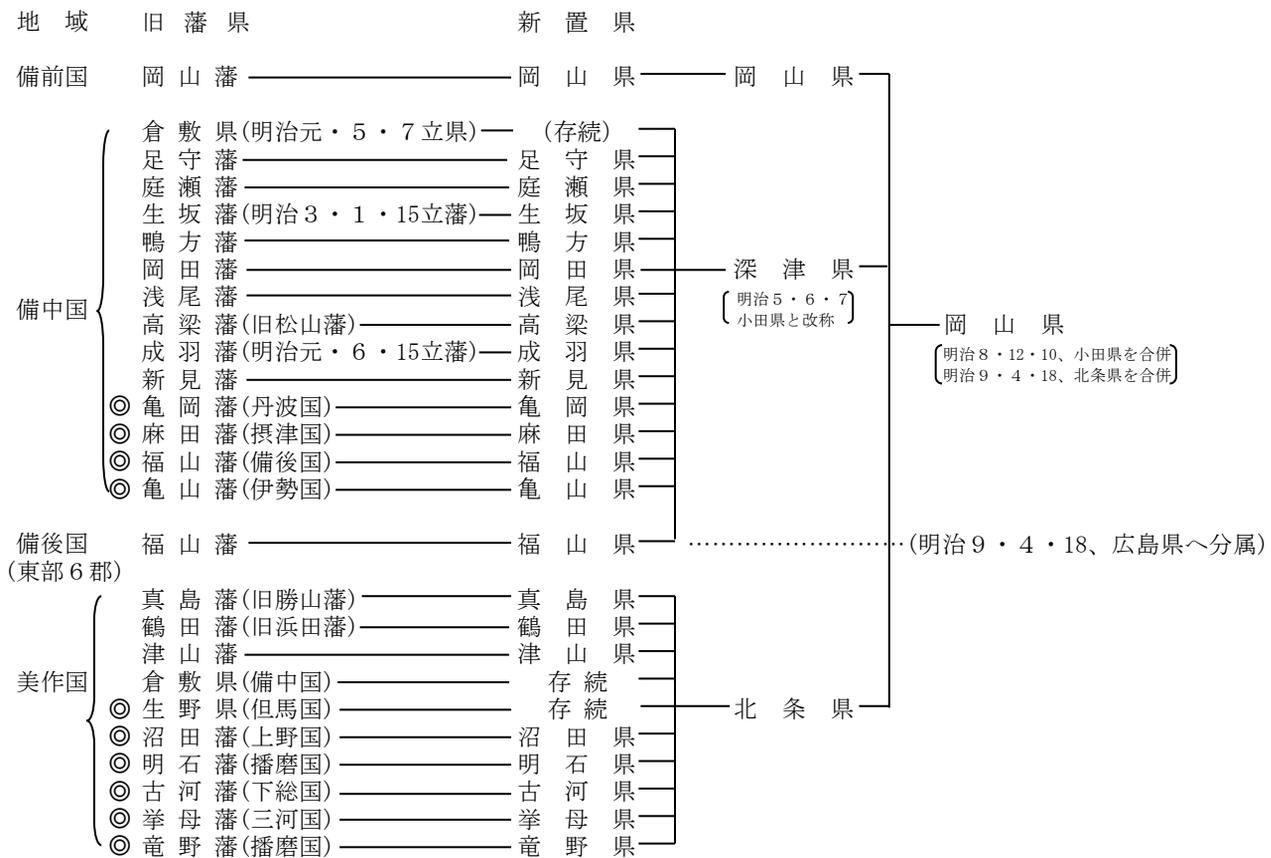
江戸時代には、備前一円は終始池田氏が領したが、備中、美作は細分されて、その末期においては、備中には、板倉氏の松山藩(高梁)をはじめ足守、庭瀬、鴨方、岡田、浅尾、新見の諸藩があり、ほかに幕府直轄地(天領)や亀岡、麻田、福山、亀山の諸藩の飛び領地があり、美作には、松平氏の津山藩をはじめ真島(勝山)藩、浜田(鶴田)藩があり、ほかに幕府直轄地や沼田、明石、古河、挙母、竜野の諸藩の飛び領地があつて、入りまじった形になっていた。

明治維新後の明治4年(1871)7月の廃藩置県で、これらの多数の藩はすべて県となったが、同年11月の諸県統合により、改めて備前一円は岡山県、備中一円と備後の東部6郡(旧福山県)は深津県(のち小田県と改称)、美作一円は北条県となった。さらに、明治8年に小田県、同9年に北条県が岡山県に合併となり、同時に備後の東部6郡は広島県へ分属となり、現在の県域となった。

昭和26年頃から町村合併が盛んとなり、昭和28年「町村合併促進法」の施行も契機となって、昭和27年11月現在7市75町247村であったのが、昭和50年5月1日現在10市56町12村となった。その後、平成11年「合併特例法」の一部改正が行われたことから、さらに合併が進み、平成19年4月1日現在15市10町2村になった。また、岡山市の人口は合併により70万人を超え、平成21年4月、岡山市は政令指定都市に移行し、4行政区が設置された。

### 諸 県 統 合 系 譜

明治4年7月14日廃藩置県



注) 1 生坂・鴨方県は、元岡山藩の支藩であった関係から、一時岡山県に編入されたことがある(明治4年11月～同5年6月5日の間)。  
2 ◎は、本地を他県に有し、飛地があつたものを示す。